

シズケア＊かけはし 見守り機能に関する取組

裾野市介護保険課
裾野市地域包括支援センター
裾野市北部地域包括支援センター

裾野市の紹介 (R4.4.1現在)

- 人口：50,089人
- 高齢者数：13,968人
- 高齢化率：27.9%（静岡県 30.2%）
- 要介護・要支援認定者数：1,927人（13.8%）
- 地域包括支援センター数：2か所

見守り機能とは

- 情報共有システムに加わった新たな機能
- 医療・介護サービスを利用していないものの何らかの支援や配慮が必要な方が対象
- 主治医の入力が必須でない
- 登録できる情報が限られていて入力が簡単
- 様々な関係者による共有が可能
- 医療・介護サービスが必要となった時は運用目的を追加すれば医療・介護の情報も共有できる
- FAXからも情報を登録できる

3

裾野市の取組

対象者：地区サロン参加者（市内7地区）

実施時期：R4年5～6月（フレイル質問票記入・握力測定）

R4年10～2月（同意書取得）

実施内容：地区サロンでフレイル質問票と握力測定を実施し、
（高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業）
結果をシズケアに入力。

地域包括支援センターと共有した。

登録者数：82人

同意が得られなかった人数：1人

シズケアで連携した数：1人

対象者の選定について

フレイルに該当する人のみ同意をとる方法もあったが、サロン参加者は高齢で、フレイルに該当しなくても医療・介護サービスが必要になる、もしくは何らかの支援や配慮が必要になる可能性は十分にある。そのため参加者全員を対象とし、シズケアに入力することとした。

全員を対象に行うことで、心理的な抵抗が低下したのか、同意率は98.8%だった。

実施による効果

- データベースとして活用できる。
- 安全に保管・共有できる。
- 結果を包括保管用にコピーする必要がある。
- 医療・介護サービス開始後の円滑なシステム利用につなげることができる。
- 将来的には救急かけはしの登録者増を期待。
- 担当者のシズケア作業上達。

苦労した点

- 複数のサロンに参加している方がおり、同意書と結果を結びつける際に手間となった。
- 市役所のシステム上フレイル質問票の入力に手間がかかった。（FAXカバーシートで解決可能）

今後の方向性

- 一体的実施事業は違う対象者に行いデータベースを増やしていく予定。
- 次年度はフレイル質問票と同意書を同時にとる。
- 今年度の実施では連携したケースが1人と少なかった。入力した82人の連携状況を確認し、見守り機能をどのように活用すべきか、今後も市と包括支援センターで検討する。